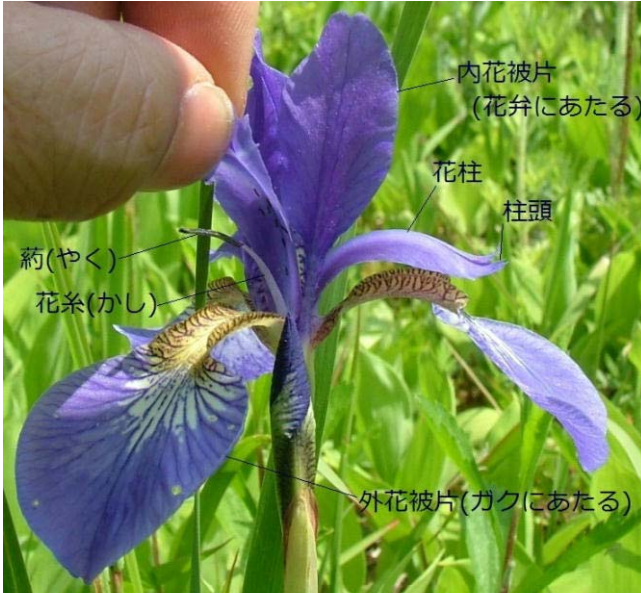


# 牛久：学校周辺に見る自然

第13号 中根小，ひたち野うしく小，他

2010年6月2日発行

## <アヤメの仲間 ———— そのつくり ————>



←アヤメの花・花弁のような雌しべを持ち上げると雄しべが見える。

雌しべを持ち上げてめぐり込むニッポンヒゲナガハナバチ →



被子植物の花が、ガク・花弁・雄しべ・雌しべから成ることはご存じですね？ アヤメの仲間はガクと花弁がよく似ていて見かけ上区別がつかず、それぞれ外花被片・内花被片と呼ばれています。外花被片を覆う花弁状のものを持ち上げてみたら、そこに1本の雄しべが隠れていました。つまり上の写真で私が持ち上げたのは雌しべなのです。ガクだけでなく、雌しべまでもが花弁に化けるとは面白いですね。

ところで、外花被片に見られる網目や黄色の筋などの模様ですが、これらは、「蜜標」といって、花粉を運んでくれるハチなどに蜜のありかを知らせる目印です。ハチたちは迷わずこの部分から奥に入っていきます。

アヤメの仲間でもう一つ変わっているのは、葉に表裏がないことです。「単面葉」といって葉が二つ折れになっており、表側は小さくなって茎や次の葉を抱き、外からは裏側だけが見えているのです。

なお、子どもの日の「菖蒲湯」に入れるのはサトイモ科のショウブで、アヤメ科のハナショウブやキショウブではありません。「尚武」に通じることから男子の祝いに珍重されたようですが、現在の武者人形の飾りにはハナショウブが使われていますね。【理科支援員 宮内】



↑アヤメの葉の両面・外から見えているのは裏側だけ



↑サトイモ科のショウブの仲間・セキショウ

ハナショウブが咲き乱れる水生植物園 (柏市) →

